PCT

特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)・

CORRECTED VERSION

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

		- III	DEA / 41 6を殺し	昭士スニレ	- 1
出願人又は代理人 の書類記号 P030P07USPCT	今後の手続きについて				_
国際出願番号 PCT/JP2004/003883	国際出願日 22.		優先日 (日.月.年) 27.	03. 2003	3
国際特許分類 (IPC) Int Cl'	C04B 35/547	·			
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人 科学技術振興機構	,		REC'D 02 JU		
			WIPO	PCT	
1. この報告書は、PCT35条に基づ 法施行規則第57条 (PCT36条) 2. この国際予備審査報告は、この表紙	の規定に従い送付する。				
2. この国際下畑番互取日は、このない					1
3. この報告には次の附属物件も添付さ a × 附属書類は全部で1	ページである	•		and the same of th	
× 補正されて、この報告の基 囲及び/又は図面の用紙	(PCT規則70.16及び)	足心神則弟りひてちゃ	· ////		
第 I 欄 4 . 及び補充欄にえ 国際予備審査機関が認定し	らしたように、出願時に した差替え用紙	おける国際出願の開え	示の範囲を超えた補1	Eを含むものと、	この
			(電子媒体の	種類、数を示す	^)。
b 電子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示す	ナトラに コンピュータ	<b>読み取り可能な形式</b>	による配列表又は配列表とは配列表とは配列表と	列表に関連する	テー
配列表に関する補元側に小: ブルを含む。 (実施細則第1	802号参照)				
770 2 BBs (XABARASA)					
4. この国際予備審査報告は、次の内容	容を含む。				
※ 第 I 概 国際予備審査	[報告の基礎			•	1
□ 第Ⅱ概 優先権	*性又は産業上の利用可	eber ついての国際	予備窓杏報告の不作品	<b>₺</b>	
	· _ <i>L.L.</i>				
第V個 第90年   1   第V個 900年   1   1   1   1   1   1   1   1   1	□ 第IV欄 発明の単一性の欠如 区 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付				:裏付
けるためのブ	で献及び説明				-
□ 第VI欄 ある種の引用					}
第 第 第 類 類 類 類 の 不 備					
第四概 国際出願に対	行うる思兄				
			//		
国際予備審査の請求咨を受理した日 26.01.2005		国際予備審査報告を2	を作成した日 8.04.2005	, 	
DATE THE		特許庁審査官(権阿	限のある職員)	4T 88	8 2 5
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J	P)				
郵便番号100-891	. 5	大橋 賢	<del>-</del>		
東京都千代田区酸が関三丁目	14番3号	電話番号 03-	3'581-1101	内線 346	3

第1欄 報告の基礎
1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。
□ この報告は、□ 語による翻訳文を基礎とした。     それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。 □ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査 □ PCT規則12.4にいう国際公開 □ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査  2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。 (法第6条 (PCT14条) の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)
出願時の国際出願書類
※ 明細書       第 1-8       ページ、出願時に提出されたもの         第 1-8       付けで国際予備審査機関が受理したもの         第 2       ページ*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの
※ 請求の範囲       項、 出願時に提出されたもの         第       項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの         第       1-4       項*、26.01.2005       付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       項*、       付けで国際予備審査機関が受理したもの
※ 図面       第 1-3       ・ページ/図*、
□ 配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照すること。
3. □ 補正により、下記の眷類が削除された。 □ 明細書 第 □ ページ 項
4. この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))
□ 明細智 第
* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

### 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP2004/003883

育V欄 新規性、進歩性又は産業上 それを <u>災付ける文献及び</u> 説	の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に 明	. 定める見際、 
1. 見解		
新規性(N)	請求の範囲 4 請求の範囲 1-3	有 
進歩性(IS)	請求の範囲       4         請求の範囲       1-3	有 無
産業上の利用可能性(I A)	請求の範囲 <u>1-4</u> 請求の範囲	有 
Litter annum (DOTHEN	0.5	

#### 文献及び説明(PCT規則70.7) 2.

文献1:上村 揚一郎 外3名, Pdを添加したLa<sub>2</sub>S<sub>3</sub>常圧焼結体の熱電特性, 日本物理学会講演概要集,第56巻第2号第4分冊, 2001.09.03, p. 530

調査報告引用文献 1 には、Pdを添加して焼結中の $\gamma$  相への転移を阻害し、 $\beta$  単相 とした $La_2S_3$ 常圧焼結体(引用発明)とその熱電特性が記載されている。

○請求の範囲第1-3項 本願発明は、引用発明と比較して、比誘電率を特定した誘電材料である点で一応

相違する。 旧壁, 3。 そこで検討するに、前記相違点は、焼結材料のもつ性質を発見し、用途を限定し たものであるが、焼結材料の形態(組成・組織等)上の区別し得る差異ではないと 認められる。

したがって、本願発明は、物として引用発明と同一であり、新規性・進歩性がな

○請求の範囲第4項 引用発明を用い高誘電率のコンデンサが得られることを記載や示唆する文献は見 出せない。 したがって、本願発明は、新規性・進歩性を有する。

## 第VI欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

請求の範囲第3項において、「上記(1)又は(2)」とあるは、「請求の範囲第 1項又は第2項」の誤記と認められる。 9

## 請求の範囲

- 1. (補正後) 結晶構造が正方晶の $\beta$ 型であり、化学組成がL n 2 S 3 (ただし、L n は希土類金属) で示される希土類硫化物粉末からなる焼結体であって、周波数領域が 0. 5 kHz  $\sim$  1, 0 0 0 kHz の範囲で、室温における比誘電率の値が 1, 0 0 0 を越えることを特徴とする誘電体材料。
- 2. (補正後) 希土類が、ランタン (La)、プラセオジウム (Pr)、セリウム (Ce)、ネオジウム (Nd) の少なくとも1種であることを特徴とする請求の範囲 第1項に記載の誘電体材料。
- 10 3. (補正後) β型三二硫化物の結晶構造が、高温において、γ型に転移するのを阻害する白金が希土類硫化物粉末に添加されたことを特徴とする上記(1)又は(2)の誘電体材料。
  - 4. (補正後)請求の範囲第1項から請求の範囲第3項のいずれか一に記載の誘電体材料を用いたことを特徴とするコンデンサー。

15

1

5

20

PCT

# 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

REC'D 2 0 MAY 2005

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の掛類記号 P030P07USPCT	今後の手続きについて	ては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。			
国際出願番号 PCT/JP2004/003883	国際出願日 (日.月.年) 22.	03.2004	優先日 (日.月.年) 27.	03.2003	
国際特許分類 (IPC) Int Cl'	C04B 35/547				
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人 科学技術振興機構	•				
1. この報告書は、PCT35条に基づ 法施行規則第57条(PCT36条)	きこの国際予備審査機 の規定に従い送付する	関で作成された国際 ・	予備審査報告である。		
2. この国際予備審査報告は、この表紙	を含めて全部で	4 ~~>	<sup>ブ</sup> からなる。		
3. この報告には次の附属物件も添付さ a × 附属者類は全部で 1	れている。 ページである				
× 補正されて、この報告の基 囲及び/又は図面の用紙(	礎とされた及び/又は PCT規則70.16及び⑤	この国際予備審査機 E施細則第607号	関が認めた訂正を含む! 涂照)	明細書、請求の範	
第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの 国際予備審査機関が認定した差替え用紙					
. Con the line A torus		•	(電子媒体の和	種類、数を示す)。	
b					
4. この国際予備審査報告は、次の内容	を含む。				
<ul> <li>※ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</li> <li>第 II 禰 優先機</li> <li>第 II 禰 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</li> <li>第 IV禰 発明の単一性の欠如 「</li> <li>※ 第 V禰 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</li> <li>第 VI禰 ある種の引用文献</li> <li>※ 第 VI禰 国際出願の不備</li> </ul>					
第四個 国際出願に対する意見					
国際予備審査の請求書を受理した日 26.01.2005		国際予備審査報告を2	を作成した日 8.04.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/J)	P)	特許庁審査官(権限	艮のある職員)	4T 8825	
郵便番号100-8915 大橋 賢一					
東京都千代田区館が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 34				7線 3463	

第1概	報告の基礎
1. z o	)国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の首語を基礎とした。
	この報告は、 語による翻訳文を基礎とした。 それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
2. この た差替	の報告は下記の出願登録を基礎とした。 (本弟も朱(ょじ「「「は木)) がにに出 え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)
	出願時の国際出願事類
×	明細杏       パージ、出願時に提出されたもの         第       付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       ページ*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       ページ*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの
×	請求の範囲       項、出願時に提出されたもの         第       項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの         第       項*、26.01.2005       付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       項*、       付けで国際予備審査機関が受理したもの
×	図面       第       1-3       付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       ページ/図*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの         第       ページ/図*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの         配列表又は関連するテーブル       配列表に関する補充概を参照すること。
з. [	] 補正により、下記の告類が削除された。
	□ 明細書       第       項         □ 請求の範囲       第       項         □ 図面       第       ページ/図         □ 配列表(具体的に記載すること)       □         □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)       □
4.	」この報告は、補充概に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超 えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))
	明細曹       第       ページ         請求の範囲       第       項         図面       第       ページ/図         配列表(具体的に記載すること)          配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること)
* 4	4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

7	THE COLOR POLICE			L			
第V欄 新規性、 それを裏	進歩性又は産業上 付ける文献及び説	の利用可能性に明	:ついての法第1 	2条 (PCT3	5条(2)) に	定める見解、 	
1. 見解					•		
新規性(N)		請求の範囲 _ 請求の範囲 _	4 1-3				有 無
進歩性(IS	· •	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	<u>4</u> 1-3				有 無
産業上の利用	用可能性(IA)	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	1-4				有 無
2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)  文献1:上村 揚一郎 外3名, Pdを添加したLa <sub>2</sub> S <sub>3</sub> 常圧焼結体の熱電特性, 日本物理学会講演概要集,第56巻第2号第4分冊,2002.09.03,p.530  調査報告引用文献1には、Pdを添加して焼結中のγ相への転移を阻害し、β単相としたLa <sub>2</sub> S <sub>3</sub> 常圧焼結体(引用発明)とその熱電特性が記載されている。  ○請求の範囲第1-3項  本願発明は、引用発明と比較して、比誘電率を特定した誘電材料である点で一応相違する。 そこで検討するに、前記相違点は、焼結材料のもつ性質を発見し、用途を限定したものであるが、焼結材料の形態(組成・組織等)上の区別し得る差異ではないと認められる。したがつて、本願発明は、物として引用発明と同一であり、新規性・進歩性がない。  ○請求の範囲第4項 引用発明を用い高誘電率のコンデンサが得られることを記載や示唆する文献は見							
引用を	発明を用い高					や示唆する文	献は見

## 第VII欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

請求の範囲第3項において、「上記(1)又は(2)」とあるは、「請求の範囲第 1項又は第2項」の誤記と認められる。 1

5

9

## 請求の範囲

- 1. (補正後) 結晶構造が正方晶の $\beta$ 型であり、化学組成が $L_{n2}S_3$  (ただし、 $L_{n}$ は希土類金属) で示される希土類硫化物粉末からなる焼結体であって、周波数領域が $0.5\,kHz\sim1$ ,  $0.00\,kHz$ の範囲で、室温における比誘電率の値が $1.0\,00\,kHz$ のを越えることを特徴とする誘電体材料。
- 2. (補正後) 希土類が、ランタン (La)、プラセオジウム (Pr)、セリウム (Ce)、ネオジウム (Nd) の少なくとも1種であることを特徴とする請求の範囲 第1項に記載の誘電体材料。
- 10 3. (補正後) β型三二硫化物の結晶構造が、高温において、γ型に転移するのを阻害する白金が希土類硫化物粉末に添加されたことを特徴とする上記(1)又は(2)の誘電体材料。
  - 4. (補正後)請求の範囲第1項から請求の範囲第3項のいずれか一に記載の誘電体材料を用いたことを特徴とするコンデンサー。

*i* 5

20